



知っておきたい、

国試のキホン

これから国試対策を始めようとしている皆さん、国試の合格規準や出題範囲について、どれくらい知っていますか？

「国試なんてまだ先のこと」と思っている方もいるかもしれませんが、病院実習の最中であつたり、マッチング・卒試などが控えている6年生の1年間は、思ったとおりに勉強を進められません。早めに意識して、情報収集や勉強を進めておきましょう。

ここでは国試の日程や問題の種類など、基本的なことを中心に紹介します。

国試っていつやるの？

2 月上～中旬の週末 (2 日間)

111回国試までは、2月上～中旬に3日間かけて行われてきましたが、112回国試からは**2日間**に変更になりました。2020年に実施された114回国試の日程は**2月8日(土)・9日(日)**で、115回国試も2月の2週目前後の週末に実施されるものと思われます。インフルエンザなどの感染症が流行する時期でもありますので、万全の体調で臨めるよう、生活面からも対策をしておきたいところです。

実施時期がわかると、残りの勉強時間も逆算できます。スケジュールを立ててコツコツ対策し、直前で慌てることがないようにしましょう。

国試当日のスケジュールは？

114 回国試の時間割

	分類	タイムテーブル	制限時間	出題数	形式 (問題数の内訳)
1日目	A 各論	9:30 - 12:15	165分	75	一般(15) 臨床(60)
	B 必修	13:35 - 15:10	95分	50	一般(25) 臨床(15) 長文(10)
	C 総論	16:00 - 18:30	150分	75	一般(35) 臨床(25) 長文(15)
2日目	D 各論	9:30 - 12:15	165分	75	一般(15) 臨床(60)
	E 必修	13:35 - 15:10	95分	50	一般(25) 臨床(15) 長文(10)
	F 総論	16:00 - 18:30	150分	75	一般(35) 臨床(25) 長文(15)
計			13時間40分	400	

111回国試までは1日3コマ、3日間で合計9コマに分かれており、出題される問題数は500問でしたが、112回国試から1日3コマ、2日間で合計6コマに変更になり、問題数も**400問**に減少したため、時間割が様変わりしました。同じコマ内では臨床問題・一般問題どちらも出題され、1問ごとに出てくる科が異なる出題形式になっています。

114回国試での時間割の変更点として、これまで1日目よりも2日目の方が長かった試験時間が、2日間で均等に分配されました(総試験時間は変更なし)。これに伴い問題数も1日目と2日目で同じ数が出題されることになりました。

115回国試も、概ね114回国試と同じような時間割で行われると思われます。時間割は受験直前(1月末ごろ)に届く受験票で確認することになります。

総論・各論って何？

総論とは

総論とは、解剖、生理、症候、検査、診察、保健医療、法律といった**全体に関わるテーマ**を指し、医師国試では「筋性防御をきたす疾患はどれか」「(診断がつかない症例で)鑑別のために必要な検査はどれか」というような形で出題されます。

疾患の知識を横断的に問う**“ヨコ切り”**の知識が要求されることもあり、各論よりも対策しにくいものも多いです。

各論とは

各論とは、**疾患の症状や検査、診断、治療**といった**テーマ**のことで、「Crohn病でみられるのはどれか」「(症例を診断させた後に)まず行うべき治療はどれか」というような形で出題されます。

範囲は膨大であるものの、**インプットしやすい“タテ切り”**の知識で解けるので、基本的には対策がしやすい部分といえます(しかし近年は、その症例の特性や状況・病態を考えないと解けない問題も増えています)。また、“**ヨコ切り**”の知識を問う問題は、この**“タテ切り”**の知識が揃ってはじめて解けるため、“**タテ切り**”の知識は国試対策のキホン中のキホンとなります。

「ガイドライン」とは？

「ガイドライン」とは、厚生労働省が概ね4年ごとに発表する「医師国家試験出題基準」のことです。「必修の基本的事項」、「医学総論」、「医学各論」に分けられており、どの分野がどれくらいの割合で出題されるべきかの目安(ブループリント)も設けられています。112回国試からは平成30年版のガイドラインが適用されており、少なくとも115回国試(2020年度の新6年生が受験することになる試験)まではこのガイドライン下で実施されることが想定されていますので、一度は目を通して全体像を確認しておくといでしょう。ガイドラインに新しく加わったテーマや疾患は、過去問対策だけでは勉強しづらい部分です。WEB版INFORMAでも話題にしていますので、チェックしてみてください。

国試関連記事は
コチラ!



平成30年版医師国家試験出題基準

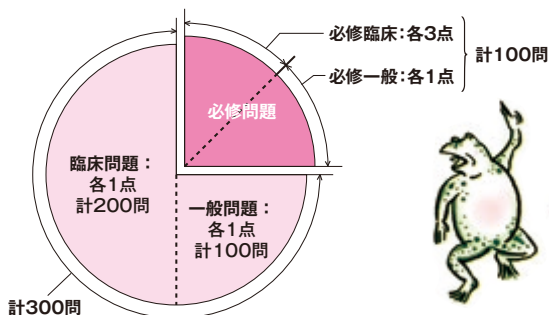
検索

どんな問題が出るの？

出題形式は3タイプ

国試では、一般問題・臨床問題・必修問題という3タイプの問題が出題されます。問題の形式として「一般問題」と「臨床問題」があり、それぞれの一部が「必修問題」として出題されると考えてください。

「必修問題」と「一般・臨床問題」はそれぞれ別に採点されるため(右頁参照)、一般・臨床問題でいくら得点しても必修問題で合格ラインを割ってしまうと不合格となります。そのため必修問題は国試の“鬼門”とされています。



臨床問題の重要性が高まっている

必修問題以外のブロックでは、一般問題も臨床問題も1問1点で採点されます。そのため1問の重さは一般問題も臨床問題も変わりませんが、出題数に違いがあります。112回国試からは一般問題が100問削減されたことで、一般問題100問に対し臨床問題が200問となりました。すなわち**臨床問題対策の重要性は一般問題の2倍**であるといえます。

必修問題はどうか。必修問題では、一般問題は1問1点、臨床問題は1問3点で採点されます。ここでは**1問の重さが臨床問題は一般問題の3倍**であることがわかります。必修問題は「80%正解しないと不合格」という絶対基準が定められており、1問3点の臨床問題をいかに落とさないかが合否に直結します。

もともと近年の国試では、臨床ならではの問題が多く出題されるようになっていきましたので、過去問(特に直近3回)やネット講座などでこういった**臨床問題特有の思考過程を意識して勉強していく**ことが、これからの国試ではますます重要となります。

合格基準はどうなってるの？

合格基準 (114 回国試より)

①必修問題	80%の得点	(絶対基準)
②一般・臨床問題	例年70%前後程度	(相対基準)
③禁忌肢	3問以下(年による)	(絶対基準)

→以上3つの基準を満たせば、合格

絶対基準：他の人ができていなかろうと、一定の得点をしなければならぬ基準。医師国試の場合、必修問題と禁忌肢がこれにあたる。

相対基準：他の人の出来具合で変わる基準。医師国試の場合、一般・臨床問題がこれにあたる。



必修問題は「絶対基準」であるため、年によって基準が変わることはありませんが、一般問題・臨床問題は「相対基準」であるため、実施年によってある程度の変動があります。

さらに詳しい情報はこちら！

Web版 [INFORMA]

国試のキホン

「臨床問題・一般問題って何?」「必修問題って何?」「禁忌肢って何?」
「どんな分野が出題されるの?」など、初期のギモンにお答えします。



国試対策いつから始める?
よく読まれている
定番記事はこちらから



最新114回国試の
分析結果も随時配信!
新着記事はこちらから



医師国試は「他の人が解けない問題を解けた人」が受かる試験ではなく、「他の人が解けた問題を間違えてしまった人」が落ちる試験です。他の受験生の動向から大きく外れた勉強をしないように周りを常に意識して、平均的な母集団から置いていかれないようにしましょう。大丈夫です、決して難しいことではありません。



国試まで残りおよそ10ヵ月、
皆さまのご健闘をお祈りしています!

年間勉強スケジュール



しっかりさん

コメント

実習で回っている科に合わせて計画的に「Q-Assist」「QB」を進めていました!

マッチング対策をかねて「QB」2周目(1周目問題以外も)開始!

最新の国試の傾向を把握できてよかった!

実力がついたのをマッチング試験で実感できました★「鑑別! 1st Impression」はpcc-OSCE対策に役立った♪

1周目問題が終わっていると全体がつかめて進めやすい!

■「Q-Assist」ほぼ全て
■「QB」全科目1周目問題完了

■「Q-Assist」残り

■「QB」メジャー2周目

■「QB」メジャー2周目
●113回国試解説
■「回数別」1年分

■「QB」メジャー2周目
●マッチング対策
●「鑑別! 1st Impression」
◆模試

■「QB」メジャー2周目
■「QB」マイナー2周目

5年生3月まで

実習と部活
(で手がいっぱい)

6年生4月

実習と部活
(で手がいっぱい)

6年生5月

実習と部活
(で手がいっぱい)

6年生6月

実習と部活
(で手がいっぱい)

6年生7月

●マッチング対策

6年生8~9月

■「QB」1周目問題
■「Q-Assist」

コメント

夏まで実習ざっしりあるのに、「QB」なんて全然進まないよ...
東医体も間近だから勉強は引退してからがんばらーっと!

マッチングは自大学の病院志望だから、なんとかなるかな...!?

部活引退!!この時点で終わっていたのは「QB」2章のみ。とりあえず「QB」と「病みえ」を全部買ってみたものの、その量に愕然。



かけこみちゃん

アイコンの見方

- : 問題集
- : 講義動画
- ◆ : 模試
- : その他



結論

実際の国試は、病態生理をしっかりと理解していないと解けない問題と、過去問を繰り返してやれば解ける問題とが半々になっている印象でした。私はインプットとして「Q-Assist」、アウトプットとして「QB」を中心に使い、整理と補強で「イヤートート」を活用しました。これで病態生理の理解から過去問と周辺知識のまとめまで上手くつながらり実力アップできたと思います！あと、みんなで勉強するのも重要！学年のほぼ全員が同じペースで進めていたので、置いていかれないようにがんばれました笑 支え合いは大事です！

マッチングの結果発表。なんと人気病院に内定！

「QB」をだいたい終わらせれば卒試に集中！卒試の自己採点も前向きな復習機会に。

回数別で国試ポイントを総ざらい。国試の得点に繋がりがやすいポイントがわかってよかった！

必修・禁忌講座は、6コマのコンパクトな講座。必修で問われやすい判断力や思考力がついた気がする！

徹底的に「QBオンライン」で△と×をなくすように復習。ノートの見直し。苦手分野は「Quick Check」で最終チェック。

やれることはぜんぶやった！がんばった自分を信じて、リラクス。体も心もベストコンディションで。

■「QB」マイナー2周目
●Dr.盛永の公衆衛生
●卒試過去問

■「QB」3周目
◆模試
●冬期講習
●卒試過去問

■「回数別」3年分
■「QB」公衆衛生・必修
◆模試

■「回数別」3年分
■「QB」公衆衛生・必修
●必修・禁忌講座
◆模試

●復習
●直前Assist

6年生10月

6年生11月

6年生12月

6年生1月

6年生2月

国試前日

■「QB」1周目問題
●「Q-Assist」
●卒試過去問

■「QB」1周目問題
●Dr.盛永の公衆衛生
●「Q-Assist」
●卒試過去問
◆模試

■「QB」1周目問題
■「QB」公衆衛生・必修
●冬期講習動画
◆模試

■「QB」必修
■「回数別」3年分
■「QB」全科目の徹底復習
◆模試

●復習

「QB」だけで不安な点は「病気がみえる」や「YN」で知識を整理。それでもスッキリしない疾患だけ「QA」を覗いた。

模試で、必修が合格点に足りず、焦りはじめた。「QB」必修も始めなくちゃ(焦)

「QB」の1周目問題がやっと終わった！冬期講習は、主要科目の差がつくテーマに絞られていてコスパがよかった。

「QB」必修を一気解き&「回数別」3年分。模試の順位が上がってきた。

「QBオンライン」で徹底的に復習。どうしても覚えられないものをスクショでとって毎日繰り返しチェック！

あがいたって仕方ない。不安や心配は全部だるまさんに託して、就寝、おやすみなさい…。

結論

短期集中型で突破できるなら、夏までは国試対策以外のやりたいこと頑張るのもアリ。国試対策の最小必須アイテムは「QB」×「イヤートート」。「QB」は1周目問題に絞っていち早く全体像をつかむことを優先。わからないところだけ「Q-Assist」を活用して効率的に学習を進めるのがオススメです。必須のものをしっかりとやりこめば、はじめは低かった模試の順位も徐々に上がって合格安全圏に入れるはず。国試の全体を1周して把握したあと、残りの力で塗り残しを潰していく勉強がおすすめです！

